

ホーム名： グループホーム きさべ		2階			
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し、全職員で共有、来訪者にも認知して頂いている。カンファレンスでの再確認も毎月行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	駅へと向かう道路に面している為に、挨拶は勿論、通りががりの方が庭に入って、行事に参加してくれたり、交流できる環境にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気楽に立ち寄って頂き、介護相談や、見学が随時行われている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の推進会議は、御入居者と地域との繋がり、御入居者の様子等から意見交換を行い、サービスの向上に生かされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護保険課の取り組みに積極的に参加し最新情報や必要に応じ助言、指導を賜り、連携を図っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束については、常日頃から研修や掲示にて身につけており、意識啓発に努めているが2階には目を離せない方がおり、スタッフがリビングから離れる際は入り口を一時的に施錠している。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の外部研修等にも積極的に参加し、研修内容を職場会議で共有しお互いのケアについても見過ごす事の無い様、一人ひとりが自己認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利として利用出来る物があれば、利用出来る様に支援している。		
		○契約に関する説明と納得			

9	<p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>今までの経歴を活かし、家族の知りたい情報・不安を察知し、十分な説明を行い、理解してもらってから契約に繋げている。</p>		
# 6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的なコミュニケーションの中で、ご意見ご要望を、運営に反映させる様に努めている。面会時に入居者の様子を細かく説明報告し、家族の意見も聞いている。</p>		
# 7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎日の申し送りでの職員の声を聞き、月に1度の職場会議での意見・提案を聞き、入居者にとって良いケアになるよう意見交換している。</p>		
#	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>ライセンスに応じて昇給制度が有るために、ほとんどの職員がライセンス向上に努力している。毎月事前に希望休を把握、長期休暇、病欠も取れる、主婦が働きやすい職場を実践している。</p>		
#	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職段階でホーム内研修を徹底的に行い、常により良いケアを出来る様にトレーニングを行い、ライセンス向上も積極的に勧めているため、職員の半数以上が、介護福祉士。</p>		
#	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>高齢介護課を中心に、グループホーム連絡会を通じ、ネットワークを広げ常に情報交換を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
#	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学・面接の中で、入居前の生活が維持できる様、家族様からの情報を最大限に活かせるケアに努めている。</p>		
#	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問い合わせ、見学の段階から家族の抱える不安苦しみ等を心から理解し、打開策を模索提案し安心して入居できる様努めている。</p>		
#	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じ、他のサービスや医療機関とも相談している。</p>		
	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p>	<p>まずは入居前の生活と変わらない様にサポート程度のケアに努</p>		

#	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	め、本人の希望を見極め、介護されるという実感でなく、自分も必要な一人と思って頂ける関係にして行くように努めている。		
#	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に代わって出来る事は職員が支援していくが、家族様にか出来ない支援は、積極的に参加してもらおう様、常日頃から呼び掛けている。		
# 8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活が、場所を引っ越ただけと説明し、友人知人、近所の方の面会、外出・電話・手紙を支援している。		
#	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態が安定しよく合うお友達関係の方は、一緒に出掛けたり、一緒のテーブルでの食事席にしたりと、お互いが気遣える関係作りをしている。		
#	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族様とのお手紙交換や、いつでも立ち寄って頂けるよう、終了時に説明している。今もボランティアとして来訪して下さる家族様も多くいらっしゃる。		

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

# 9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味、嗜好品をリサーチし、本人が過ごし易い様に部屋のレイアウト等も変化させている。		
#	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に家族様からのお話を傾聴し、生活歴の把握に努め、本人の生活が維持できる様、職員一同共有、実践に努めている。		
#	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ生活してきたリズムに沿うように、大まかなホームの生活リズム以外は個々に過ごしていただいている。		
# #	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りから、問題点やより良いケアになる方向へのアドバイス等を、家族、医師を交えて話し合い、本人にとって一番安楽な暮らしに寄り添った計画を実践している。		
#	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアした部分を最終的には、日勤リーダーが個別のケース記録に集結し、管理している。		

#	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	『医療連携』や個別ケアに必要な事は、家族様との話し合いの中で、柔軟に対応している。		
#	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	田畑に囲まれたホームは、散歩に出れば、お野菜を頂いて帰って来たり、お寺ではお茶とお菓子を楽しませて頂いたり、地域に根付いた暮らしを楽しませて頂いている。		
#	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	毎週月曜日、ホームドクターの往診。入居者の緊急時は24時間連絡が付き、すぐに駆けつけて頂ける体制が整っている。		
#	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	毎日の申し送りの中で、気になる事があればすぐに看護師に申し送り、必要な処置があれば、継続的に観察、必要ならば医師への連絡役ともなっている。		
#	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時はホームからとホームドクターから情報提供を行い、退院時は病院からの情報交換、リハビリ等の見学と、退院後も切れ目の無いケアに努めている。		
#	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	ホーム開設以来、終末まで生活出来る様、家族とのコミュニケーションの構築、本人家族の意志の確認を行い、医師を交え家族と話し合う機会を設けている。		
#	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変、事故に面した時の応急手当は常日頃から、看護師より伝授、訓練している。その後の処置に関しては管理者、看護師、ドクターのいずれかに必ず連絡する様になっている。		
#	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	春、秋の避難訓練を実施。同時に避難路、避難具の確認。近隣に対し災害時の応援を自治会を通じ回覧して頂いている。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p>	常日頃入居者は、この世の中を築いてくれた大先輩であると尊敬の念を培って人権を尊重		
---	-------------------------------	--	--	--

#	#	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	し尊厳の心で行った対応を尊重し、プライバシーの確保にも留意している。		
#		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	足元の安定した方。おしゃれが好きな方には、スタッフとの買い物等に便乗していただき、他の染みの時間としている。		
#		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の後片付けや洗濯干しなど、今まで主婦として生活してきた部分は、自ら率先してお手伝いして頂いている。		
#		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事やレクリエーションでの外出時は、お化粧品や好きな洋服での参加を支援している。		
#	#	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	仲良しさんと一緒に食べれるように、席を決め。野菜を刻んだり、お米を研いだりと、お手伝いも積極的にして頂いている。		
#		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事、水分量は利用者ごとに記録。水分量はそれぞれの個々に使っている量を周知し提供ごとにさり気無くチェックし1日量をトータル記録している。		
#		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは徹底実施。口腔ケアが出来なくなったら、緑茶ケアを実践している。		
#	#	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシートを活用しその人その人に合わせた支援を実施している。		
#		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェック、献立の工夫、生活の中での運動量、体操などを行い、排便時間も設けて実施。それでも困難な方は、緩下剤の微調整を行って、排便サイクルを掴む様にしている。		
#	#	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、拒否する人が多くなる中、毎日入りたいという方に関しては、毎日入浴できるようプログラムしている。		
#		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見ながら寝たい！、ベッドでなくお布団で寝たいと、それぞれの生活感によって個別対応している。		
		○服薬支援			

#	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は谷ノロースタッフは周知し、2段階チェックの元、投与する間に再度、名前の確認をして投与している。		
#	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リズムにそって、それぞれの出来る主婦業を、大いに發揮していただいている。		
#	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り、歩ける間に行きたいところへ、行っていただけるよう、家族様への支援を、常に行っている。		
#	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、買い物では自分で支払ってもらっている。		
#	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自由に電話・手紙が出せる様支援し、携帯電話などの使用も特に制限していない。		
#	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お掃除、匂い等には、特に気をつけ、お部屋の換気なども調整。お布団も、出来るだけ干すように努めている。リビング・ドアプレートには季節の飾りを入居者さんと一緒に手作りして飾っている。		
#	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、お部屋でくつろいだり、お部屋に仲良しさんと呼んでお写真を見たり話したりと、自由に暮している。		
#	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、お部屋のレイアウトは、ご家族さんと相談して自由に空間作りをしている。		
#	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆくゆくのことを考え、車椅子や歩行器が使えるようにハード面ではバリアフリーにし、車椅子のままリビングや表に出る事が簡単のように支援している。		

## V アウトカム項目

#	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
#	利用者と職員が、一緒にゆっ	○ ①毎日ある ②数日に1回ある

〃	たりと過ごす場面がある		③たまにある ④ほとんどない
#	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
#	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
#	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
#	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
#	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
#	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどできていない
#	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
#	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
#	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
#	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
#	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない